

「大坂の史跡を訪ねて」連載21回目

オサタニ ヨシハル
長谷 吉治

- ▶ 今回は、守口から大阪市内に場所を戻します。まず初めに「土佐藩住吉陣屋跡」。その後、今回と次回に分けて、長柄墓地、阿倍野墓地に眠る偉人をご紹介します。いきたいと思います。

土佐藩住吉陣屋跡

大阪市住吉区東粉浜2丁目

- ▶ 幕末、土佐藩が幕命により大坂の海岸警護のため築いた「土佐藩住吉陣屋」についてご紹介します。
司馬遼太郎著の「竜馬がゆく」(文春文庫第3巻 P34～)では次のとおり紹介されています。「場所は、住吉村中在家にある。幕府からの拝領地に建てたもので、敷地は一万七十九坪七合五勺。海浜に面し、構えは、ほとんど城郭といい。土佐藩では、「住吉陣営」と通称していた。幕府が、外国陸戦隊の堺上陸にそなえて建てさせたものである。故東洋(吉田東洋)が、幕府の機嫌をとるために、必要以上の経費を投じて造営した。武装も相当なもので、沿岸に砲台をつくり、陣中にはオランダから購入したゲベール銃五百挺を用意し、陣営の指揮官には家老級を置き、藩士五百人を収容している。」

<完成までの経緯>

万延元年(1860)7月、幕府は大坂・兵庫・堺・和歌山などの海岸警護のため次のとおり各藩に警衛を命じました。

○大和川流域:柳川藩 ○大和川より尻無川:土佐藩 ○尻無川より安治川:鳥取藩
○安治川以北:岡山藩 ○兵庫:長州藩

土佐藩は同年8月、幕府より住吉の地を譲渡され、翌年の文久元年(1861)5月に陣屋を完成させています。

この工事は、材料の木材や石、大工、人夫はすべて土佐から調達しています。

作時奉行に寺村左善、普請奉行に後藤象二郎があたり、当時の参政 吉田東洋も現場を視察するほどの力の入れようでした。

慶応元年(1865)には山内容堂も視察のため、住吉陣屋を訪れています。



山内容堂



吉田東洋



後藤象二郎

<陣屋の規模>

陣屋は約3.3ヘクタールもの広大なもので、陣屋が建てられた場所は、紀州街道(現在、阪堺電気軌道阪堺線が走っている道路)の東沿いに正門を設け、南北約360m、東西約140mの長方形で、東側である上町台地西崖を除いた三方向に堀を巡らしていました。

中は正門すぐに陣屋本殿があり、その奥である東隣に武芸所の文武館がありました。

そのほか、厩舎、火薬庫、射撃場、操練所があり、300名が常駐していたそうです。

<陣屋に勤務した人物、訪れた人物>

最初の陣屋警備は、中老 山内左近が総指揮役、馬廻頭に山田八右衛門が務めています。そのほか、坂本龍馬ともゆかりのある 間崎哲馬(滄浪)、望月清平、清岡道之助、谷 干城などが陣屋に勤務していました。

訪れた人物としては、文久2年(1862)4月8日に本間精一郎を連れて来た吉村虎太郎がいます。島津久光の上京により一気に倒幕へ向かわせようと、上士を説得させるためであったといひます。龍馬と共に勝 海舟門下にいた望月亀弥太も陣屋を訪れており、文久3年(1863)1月、母宛に次のような手紙を残しています。

「(最初省略)大坂八軒家につき中、御やしの近江宿をとり、夕方勝先生の御旅宿江参り候処、せんせいはいまだ用事これあるおもむきにてふなで延いん、同九日、本町三町目、せんせいの御りょ宿にとふりう、すみよし御ぢんやに行申候。」



谷 干 城



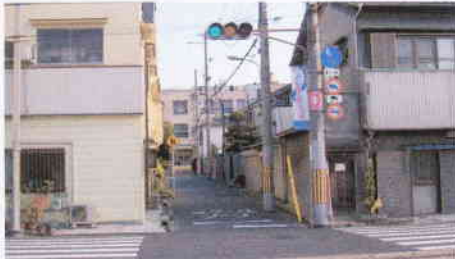
吉 村 虎 太 郎



清 岡 道 之 助

<陣屋跡の場所>

陣屋跡を示す石碑や案内板は無く、資料等によると住吉区東粉浜2丁目周辺が該当します。その場所には、東粉浜小学校(住吉区東粉浜2丁目3-26)や東粉浜幼稚園があります。



旧紀州街道から東側を見た住吉陣屋跡



旧紀州街道(阪堺電車が走る道路)



住吉陣屋跡地にある東粉浜小学校

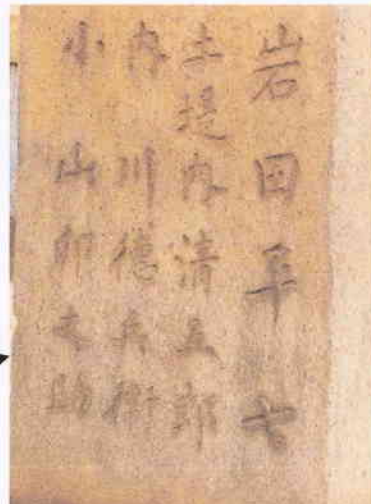
<陣屋の撤去>

慶応2年(1866)、住吉陣屋の警備を免じられ京都の警衛を命じられましたので、陣屋は撤去されることになりました。同年3月、陣屋大部屋の者達が記念の常夜灯を造り、住吉大社に献納しています。

部屋頭 土堤内清五郎らの献納した灯籠は現在でも住吉大社で確認することができます。



住吉大社にある常夜灯



土堤内清五郎の名が確認できる

＜陣屋の遺構＞

慶応3年(1867)7月、京都北郊外白川村にある土佐藩邸内に、中岡慎太郎を隊長とする陸援隊が新しく組織されましたが、住吉陣屋の建物の主要部分が、この陸援隊本営に移築されています。

しかし、中岡慎太郎は、坂本龍馬と共に慶応3年11月15日、京都近江屋にて暗殺されてしまい、陸援隊は慶応4年1月に解散となります。陸援隊本営は、その後は姿を消してしまい今は見ることはできません。

ただ、住吉陣屋の石垣に使われた石が、住吉陣屋のあった場所からさほど遠くない、生根(いくね)神社に一部移築されています。今でも住吉陣屋の遺構として見る事ができる唯一の場所です。



陸援隊長 中岡慎太郎

生根神社(大阪市住吉区住吉町2-3-15)は、東粉浜小学校正門前の道を南に行き、六道の辻(現在は道が1本増え、7つの道が交差している)にある閻魔地藏堂を通過し、阪堺電気軌道上町線の踏切を渡って少し行ったところにあります。

生根神社は、江戸時代、住吉大社の摂社でしたが、明治5年(1872)に分離独立しました。本殿は、慶長5年(1600)か6年ごろの建立で、淀殿の寄進により、片桐且元が工事を担当し、完成したと伝えられています。

さて、問題の石ですが、境内の北西に位置する絵馬堂という建物(現在は使用されていません)があり、その西が崖になっています。その崖の部分に使用されている石が、住吉陣屋の石垣として使用されたものです。



土佐藩住吉陣営に使用されていた石垣(生根神社)



石垣部分を拡大



生根神社鳥居



生根神社にある絵馬堂